

北陸域の地震活動と地殻変動 Seismicity and crustal movement in Hokuriku region

竹内 文朗^{1*}, 澁谷 拓郎¹, 大谷 文夫², 松村 一男², 西上 欽也¹, 平野 憲雄¹, 岡本 拓夫³
TAKEUCHI, Fumiaki^{1*}, SHIBUTANI, Takuo¹, OHYA, Fumio², MATSUMURA, Kazuo², NISHIGAMI, Kin'ya¹, Norio Hirano¹,
Takuo Okamoto³

¹ 京大・防災研, ² 京大・防災研・定年退職, ³ 福井高専

¹DPRI, Kyoto Univ., ²DPRI, Kyoto Univ. (retired), ³Fukui NCT

これまで同様、北陸域の1976-2011年にわたる震源データを用いて、震源の分布や時間的な変化、b値の時間的な変化、等を示す。また、ほぼ中央に位置する京大防災研の北陸観測所における2006-2011年の伸縮計データを調べた。

震源データの前半は防災研各観測網データのつなぎ合わせの thanks データを利用し、1999年01月以後は気象庁一元化データを利用した。地震は、我々の観測開始以前に大き目の地震が発生した域に多く起こるが、そうでない地域にも小規模な群発地震が起こる例も幾つかあげられる。b値の変化が時間的、空間的に似通っている範囲を大きく分けると、今回の範囲では、丹波、福井、養老-濃尾などが顕著である。

これと付随して、2006年から今日まで、北陸観測所の坑道で、伸縮計観測を行っている。これによると、3成分とも2008年一年間程度は、それ以前、以後とは違う動きを示している。特にほぼ東西成分は1年で5.0E-6程度の伸びを示し、他の年の数倍の動きを見せた。近傍のGPSデータではSABAE-FUKUIKEDAに、方向やセンスが一致しないものの、同時期に大きな変化が見られる。

ポスターでは、これらに付き、もう少し細かく説明したい。

キーワード: 北陸域, 震源, b 値, 伸縮計, GPS

Keywords: Hokuriku region, hypocenter, b value, extensometer, GPS